かさおか

発行所
天理教笠岡大教会
かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)
電話 66−1311
FAX 66−1314

今年も色とりどりの花を咲かせたヒラドツツジ
(5月3日 大教会神苑で撮影)

さあ！おたすけ　祈る 動く つなぐ

おたすけ・お願いカード　集計：72，282枚
平成27年3月21日～4月20日
累計：870，042枚

一万人のおぢばがえり　集計：1，237人
平成27年1月1日～4月20日
累計：2，678人

立教178年
5月号

喜びの雅楽演奏会♪

四月十八日、教祖御誕生祭に合わせて、詰所三階講堂に於いて、雅楽演奏の機会をお与え頂きました。事の始まりは二月、修養科生として学んでいた森川道弘君（弓ヶ濱分教会後継者、天理大雅楽部ＯＢ）の一言からでした。

「先生、御誕生祭の時に詰所で舞楽をやる事って出来ますか？」と。

教養掛の私は、即座に「御誕生祭、婦人会にと大勢お帰りだから皆さん喜ばれるワ、やろう、やろう」と云う事に。早速、関係各所に相談、詰所行事も特にないとの事から、承諾も得て開催の運びと成りました。とは言うものの舞楽はあまり経験がなく、メンバー集めにも苦心しましたが、開催前の二十分ほどの手合わせで、いきなり本番を迎えました。さすがに本番に強い？連中！ そして何よりも大勢の聴衆の皆さんの熱気に後押しを頂き、上々の出来であったように思います。

かねてからの神前での雅楽奉仕はもとより、にをいがけの一環として対外的な発表の場も持ちたいとの思いから、楽太鼓・高欄など作っていましたので、今回使用しました。季節の花々も教会の婦人方からかき集め持参し、色取りに添えてみました。終了後、たくさんの方から、御礼、感激の言葉をおかけ頂き、部員一同感無量の心地でした。

➢ 慰労として簡単なオツマミと缶ビール祝杯をあげ、更なるステップアップを誓い合いました。

➢ 御鑑賞下さいました皆様に、改めて御礼を申しあげます。ありがとうございました。

（瑞北分教会長　福島泰道）

上原一始さんご結婚

4月23日午前10時、大教会において、大教会長様四男・一始さんと、東福山分教会長の三女・美可さんの結婚式が、主礼・上原繁道先生のもと執り行われました。

大教会だより

＝辞令＝

立教178年4月21日付

◎登用

おつとめ奉仕人

室　悦子
〃　岡﨑和美
〃　吉岡八恵
雅楽奉仕者　森川道弘
〃　余村元

◎教人資格講習会修了者

立教178年5月11日終講

雲東　木原綾女

◎教祖誕生祭詰所受入ひのきしん

東ブロック　鶴眞　頼経知加
福山ブロック　福芦　藤原鈴江
高屋ブロック　稲倉　藤井宏一
島根ブロック　照雲　雑賀元生
上府ブロック　上下　山野三千代
有志　福芦　藤原徳美
瑞雲　豊田俊美
甲井　山田敏教
甲井　山田信子

◎本部食堂ひのきしん

自　立教178年5月1日
至　立教178年5月15日
西伯　本多孝二

◎立教178年定期巡教

福山佐藤道孝
高屋大教会奥様
神邉大教会奥様
島根大教会長様
久松大教会奥様
鶴山吉岡壽
弥高山上原繁道
陽備佐藤道孝
摩耶大教会奥様
金浦吉岡壽
興明中村邦義
ひろさと上原繁道
陶山吉岡壽
芳井中村剛
呉照佐藤道孝
海松ヶ岡上原繁道
東悠大教会長様
吸江佐藤道孝
照陽佐藤道孝
輝美濃大教会長様
新山邑大教会奥様
呰部大教会長様
明石市中村邦義
上下中村剛
府中市上原繁道
東城大教会長様
服部中村邦義
島中大教会奥様
驛家上原繁道
油木大教会長様
葦陽大教会長様
湯田原中村剛
備中中村剛
神昭吉岡壽
美之郷中村邦義
錦備中村邦義

こころの詩

笠岡の教友が選ばれ掲載されていましたので転載いたします。(敬称略)

▼『天理時報』

▽4月26日付「時報歌壇」

・海松ヶ岡㊐　藤井光子さん

たっぷりの日差しは春の気配して
日だまりのなか編み物をする

・海松ヶ岡㊐　池田広子さん

濃き霧にかき消されゆく通勤車
われ頬濡(ほおぬ)らしペダル踏みゆく

▽9月1日付「時報俳壇」

・芦品㊐　金谷眞佐代さん

夜桜やお道談義に花が咲く

▼表紙写真

(吉岡輝昭かさおか編集部員)

※お詫びと訂正

本年4月21日発行の『かさおか 第54巻第4号』の記事中、次の通り、多くの誤記がありましたので、訂正箇所を、それぞれ、「誤→正」の書式で羅列いたします。

4ページ2段目12行目「暖かい」(2ヶ所)→「温かい」、同3段目8行目「してしては」→「しては」、同18行目「写せる」→「映せる」。5ページ2段目後から7行目「暖かさ」→「温かさ」。6ページ4段目後から2行目「もらると」→「もらえると」。8ページ2段目後から6行目「様」→「様」。

14ページの「稿案・天理教笠岡大教会史年表」は全く校正が出来ておらず、数ヶ所の誤記がありましたので、今月分と合わせて再掲いたします。

校正不備の状態での発刊になり、読者の皆様ならびに関係者の皆様にご迷惑をお掛けしましたことをお詫びするとともに、ここに訂正させて頂きます。

去年の事になりますが、我が家ではうれしい事がありました。十一月末頃に、子供が幼稚園で描いた絵が、市長賞を頂きました。幼稚園の先生から尾道の公会堂の別館に描いた絵が飾られてると聞き、早速、絵を見に家族三人で行き、絵を見てびっくりしました。描いた絵は去年の幼稚園の修了式に持って帰って来て、神殿の片隅に飾っています。月次祭などには色んな方が教会に来られ、たくさんの人に褒めてもらって家族も嬉しいかぎりです。その事から普段慌ただしく過ごしている中に日々の子供の成長と、何気なく過ごしている日常に改めて神様への感謝や御恩を感じさせて頂いている今日この頃です。

話は変わりますが、年祭活動の仕上げの年の四月二十九日の全教一斉ひのきしんデーでは、初めて、このひのきしんデーに二人参加して頂きました。これも年祭の旬の最中に大きな御守護を頂き、うれしく思いました。この勢いで残り八ヶ月家族の中からでもおたすけ精神を意識して、少しでも年祭の旬に成人させて頂ける様に勇んで悔いの残らない様に日々通らせて頂きたいと思います。(内)

四月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます
親神天理王命の御前に 会長上原理一 慎んで申し上げます
親神様には一列人間の陽気ぐらしを楽しみにこの世と人間をお創造下され御守護お育て下されたばかりでなく 旬刻限の到来と共に元のいんねんある教祖を月日の社とお定めになり ひながたをお示し下さり つとめとさづけをお教え下さって陽気ぐらしへとお導き下さっております事は誠に有難く勿体ない極みでございます
私共はお聞かせ頂く親心一杯の御守護お働きに報いるべく 日々は朝夕にお礼申し上げつつ 教祖年祭の旬も相まって 成人目標の実践を通してたすけ一条の御用の上に努め励ませて頂いております その中この月十八日は教祖二百十七回目の御誕生日をお祝いすべく教祖御誕生祭 引き続いて十九日の婦人会総会には誘い合わせておぢばがえりさせて頂き 共々に喜びを分かち合わせて頂きました
そして今日の吉日はこれの教会の四月の月次祭を執り行う日柄でございますので 只今からおつとめ奉仕人一同 喜び感謝並びにたすけ心も一入に明るく陽気に勇んで坐りづとめてをどりをつとめさせて頂きます 御前には今日の日を楽しみに七万二千二百八十二枚のおたすけお願いカードを持ち寄り日頃の御高恩に改めて御礼申し上げると共に たすけ心一杯に声高らかにお歌を唱和する皆の真実の状を御覧下さいまして 親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます
さて二十九日は全教一斉ひのきしんデーでございます 昨年は雨で中止になった所もありましたが 今年は是非とも晴天の御守護を頂戴しお互い誘い合わせて参加し 今まで以上に賑やかに勤めさせて頂きたいと存じます
又来月は直轄巡教をさせて頂きます 一月から三月にかけて全部内教会に徹底を図った三年目の成人目標の実施状況の確認と共に もう一押しの徹底をして心定め完遂に繋げていく所存でございます
何卒親神様には 教祖をお慕い申し 教祖にお喜び頂ける成人の歩みにしようとたすけ一条に邁進する皆の誠真実の心をお受け取り下さいまして 万たすけの上に自由の御守護を賜り 御恩報じを願いたすけ一条に歩む人を次々とお引き寄せ下さいまして よろず互いに助け合う陽気づくめの世の状が一日も早く実現しますよう御守護お導きの程を 一同と共に慎んでお願い申し上げます

立教百七十八年 四月月次祭 祭典役割表

祭主	大教会長様
扈者	中島誠治
	今川昌彦

講話	岡本久善

賛者	高木昭祥
	内海史郎
指図方	佐藤道孝

六月講話	門脇元教

役割＼区分	坐り勤	前半	後半
地方	佐藤道孝	中村邦義	吉岡壽
	中村道徳	岡﨑真一	三島渉
	浅野明教	上原浩	武内清明
おつとめをどり	大教会長様	中村剛	上原繁道
	岡本久善	門脇元教	中島誠治
	上原繁道	上原志郎	今川昌彦
	大教会奥様	武内正美	上原順子
	田中ますみ	門脇加津	横山小智榮
	門脇郁子	高木孝子	中村初美
笛	山野弘実	上原繁次	虫明立生
ちゃんぽん	虫明立生	内海史郎	佐藤真孝
拍子木	谷内伸自	渡邉隆夫	吉岡誠一郎
太鼓	田中隆之	田林久嗣	横山逸郎
すりがね	笹尾正治	山田敏教	森本忠善
小鼓	高木昭祥	岡﨑輝彦	赤木素志
琴	虫明好美	佐藤香苗	森本冨美子
三味線	今川佐智子	内海安子	笹尾一美
胡弓	上原順子	岡﨑豊子	三島照美

昭和48年（1973年）立教136年

この年は、一月諭達が発布され、教祖九十年祭へ向けてのよふぼく信者の心構えを明示された。更に二月に入って、諭達本部巡教があり、笠岡では本部員・平野知一先生を迎えての講習会となった。いよいよ九十年祭へ向けての三年千日の歩みが始まったのである。又、梅華会による中華民国親善訪問が始まり、大教会三代会長・上原繁雄は戦時中、台湾伝道庁長を勤めた事もあって梅華会団長として出席し、以後十回にわたり中華民国を訪問した。

この年の大教会年間統計　初席者七百八十人　おさづけの理拝戴者五百二十九人　修養科修了者百九十三人　教人登録百九十二人　教人総数一千九百八十六人　よふぼく総数九千三十三人。全教よふぼく総数六十八万一千四百三十八人。

昭和49年（1974年）立教137年

教祖九十年祭三年千日第二年目

「かさおか」誌一月号から転載

をやにお喜び頂くために

年頭会議に出席して

大教会年頭会議は、恒例によって昭和四十九年一月九日午前十時から、大教会において行われましたが、年祭活動第二年目の本年こそ、各自の身に、家に又教会に、結構なご守護を頂き、をやの御思いに応えたいものと、期待に溢れて大教会に帰らせて頂いたのは、大教会役員、つとめ人をはじめ教会長、布教所長その他四百人を上回る数でした。

大教会長様の年頭のごあいさつは、真柱様の時旬に対する御思いがどこにあるか、その思いを戴いて本年の歩みを如何に進めて行くかという事に終始したのであります。

昭和49年　（1974年）　立教137年

――をやの思いを戴いて本年の足取りをさせて頂くべく、更に過去一年の事を振り返り、思い返して大教会の歩みを固めたい。

そうして昭和四十七年十月二十六日秋季大祭の神殿講話、翌十一月二十六日月次祭後、会議室においてのごあいさつ、そして明けて昭和四十八年一月春季大祭に御発表頂いた諭達第二号及びその時の神殿講話、更に昨年十月秋季大祭の際の神殿でのお話、引き続いて翌二十七日、年祭準備委員へのお言葉、そして本年一月五日年頭のごあいさつと、真柱様の御心そのままにお聞かせ頂いたのであります。

――年祭活動は一昨年即ち昭和四十七年十月、秋の大祭に真柱様のお言葉を戴いた時から始まっている――との大教会長様の一言を聴いて、胸に五寸釘を打たれるような感じがしたのは私だけだったでしょうか？

恥ずかしい事ですが、年祭活動は諭達のご発表のあった昭和四十八年一月二十六日からだと思っておりました。この一つの事を考えただけで、折角有り難い時旬を迎えながら、うっかりと日を過ごした事が悔やまれてならないと同時に、言われても話されても、自分の思い通りにしか受け取っていない自分を今更の如く反省したのであります。

――私達はとかく、をやの思いを解せないで、私達の成人の足りなさに気づかないで、素直になれず、ともすれば、をやが私達の思いとかけ離れている事を不平、不足に思い勝ちである。教祖が親神様の思召通りに歩まれたのがひながたであるならば、私達は何よりもまず、素直にをやの思いを実行する意志を持たねばならない。更に、年祭の由来が、親神の思いと我々人間の思いの違いから生じた事、史実に基づいて言うならば、教祖にお元気になって頂きたい上か

らの思いが、その当時の人々の心とは逆に、教祖は口を利かれなくなった。即ち、御身をお隠しになったという事実から考えるならば、年祭を迎える私達道の子のすべき事の第一は「心の成人」であり、具体的には教会内容の充実こそが、年祭活動の第一眼目でなければならない。

―

との真柱様のお言葉を、私達にお伝え下さいました。

真柱様の一番お心にかかっている事は、それぞれの教会内容の充実であり、各教会がぢばの理を戴いておつとめ奉仕人を揃え、一つの役割も欠ける事なく奉仕させて頂くという事なのであります。

大教会長様よりお聴かせ戴く、その時々の真柱様のお話は、まさに教会内容を充実せよ、言葉を替え表現を替えてお話し頂いているのであります。

そして、事情教会と新設教会という上から諭して下さり、

―年祭は私達の飛躍の台であり、積極的に世界たすけに乗り出して下さったのだから、よふぼくは救け一条に徹底する事によって、教会内容は充実される。教会長は、その者から分かりてくれとのお言葉より教会内容の充実につとめて頂きたいと仰せ下さり、

―現在の立場で、その責任を全うする事、自分の与えられたつとめをつとめ上げるという事に私の気持ちがこめられている。つとめ上げるという事は、別の言葉で言うならば、目的達成までつとめるという事であり、十分満足するまでにつとめるという事である。お互いに目指しているのは、教会内容の充実である、とお話し頂き、

更におやさとふしんに言及され、

―おやさとふしんはさせて頂かねばならない。しかし私の心にかかっているのは、各地の教会が充実さえするならば、期せずしておやさとやかたの上には、その喜びの姿が見えてくると信じている、とまで縷々お述べ下さっているのであります。

大教会長様にお聞かせ頂くまでもなく、お互いに教会内容の充実という事は耳にたこが出来るまで聴かせて頂き、合い言葉のように話していましたが、成人の鈍さの故に、又多忙な感じのする毎日の故に、ついうっかりと過ごしていましたが、真柱様がこのように、機会ある度に教会内容の充実という眼目についてお話し頂いている事を思うとき、お互いは、この事に性根を入れてつとめさせて頂かねばなりません。

さて本年の心定めは、

1、よふぼく一人が新しい方（未信者）を連れてのおぢばがえり。つまり大教会としては二万人のおぢばがえり。

2、かしものかりもの袋の六割の定着。これは教会教費金と同じく、よふぼくは一月千円のつとめをさせて頂くのが、当然の義務とする事。そうして新たなよふぼくは必ずつとめさせて頂く。

3、布教所は初席者、よふぼく各二人以上のご守護を頂く。

4、教会は所属布教所の心定め数を除いて、初席者、よふぼく各五人以上、修養科生三人以上、教人登録二人以上のご守護頂く。

5、御奉公は一億五千万円、三月、九月、十二月と仕切ってつとめる。

以上であります。